

存在感を増す対 BRICs 輸出

【ポイント】

1. BRICs は高成長を続けており、2006 年には名目 GDP の増加額が韓国一国分の名目 GDP を上回るなど、世界経済の中でその地位を高めている。
2. その成長の中身を見ると、所得水準の向上から消費が拡大し、海外からの直接投資も大きく伸びている。また輸出は、米国以外の地域向けが拡大しながら堅調に推移している。
3. わが国の輸出は、米国向けの存在感が薄らぐ中、BRICs 向けがその存在感を増している。BRICs は、今後も米国経済の影響をあまり受けずに高成長が続くと思われる、それに伴いわが国の輸出も増勢を維持するだろう。

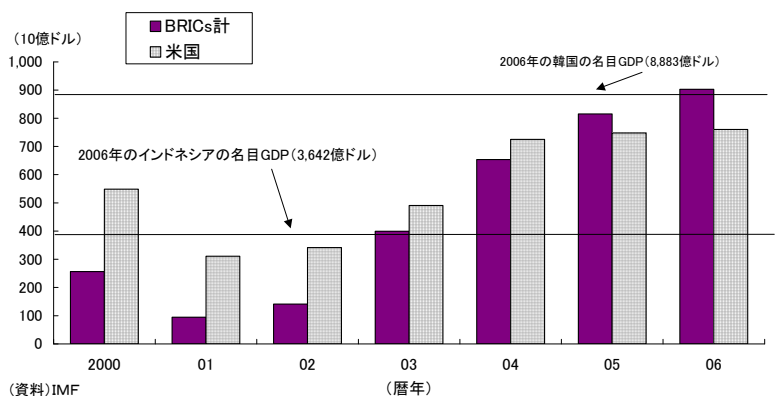
1. 高成長を続ける BRICs

ブラジル (Brazil)・ロシア (Russia)・インド (India)・中国 (China) の 4 カ国の頭文字を取った BRICs。高成長が続いており、世界経済の中で着実に地位を高めている。

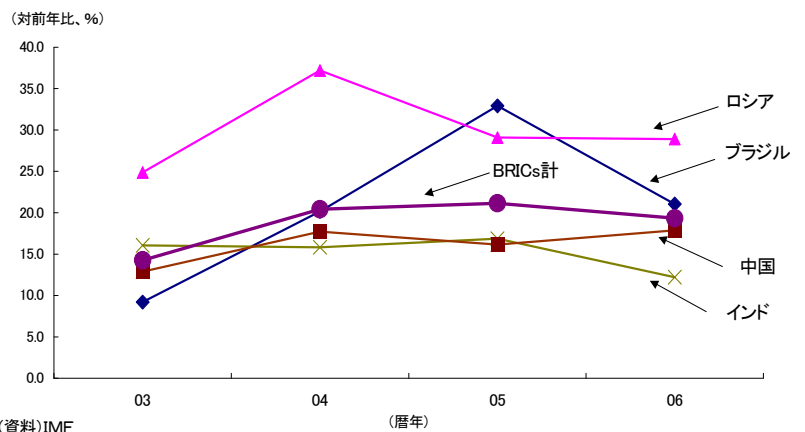
図表 1 は、BRICs と米国のドル換算した名目 GDP 増加額の推移を示したものである。高成長を背景に BRICs の増加額は年々拡大しており、2003 年にはインドネシアの名目 GDP である 3,642 億ドルを、さらに 2006 年には韓国の 8,883 億ドルを上回る需要が新たに生み出されている。

米国の名目 GDP 増加額と比較してみても、2005 年には BRICs の増加額が 671 億ドル上回り、2006 年にはその差が 1,417 億ドルまで拡大している。2003 年から 2006 年にかけての BRICs 各国における名目 GDP の伸び率の推移を見ると (図表 2)、全ての国が総じて 2 桁の伸びで推移している。各国それぞれ内情は異なるが、高成長が続いているという点において、BRICs4 カ国の足並みは揃っていると言えよう。

図表 1. 名目 GDP 増加額 (ドル換算) の推移



図表 2. BRICs 各国の名目 GDP 伸び率の推移



2. BRICs 各国の概況

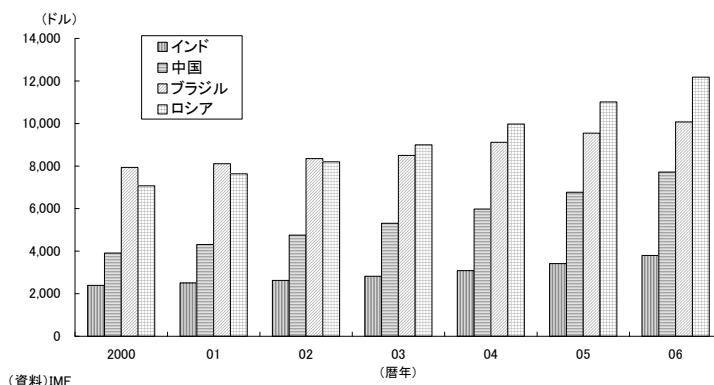
ここからは、BRICs 各国の高成長の中身を見ていく。図表 3 は、購買力平価ベース (あ

る一定の財・サービスを、各国で同価格とするために用いる為替レートによって評価し直したものでドル換算した、1人当たり GDP の推移である。伸びで際立っているのは中国であり、2001 年以降 2 桁の伸びが続き、2006 年の 1 人当たり GDP は、2000 年の 1.97 倍となった。それ以外の BRICs 各国も、ロシア 1.72 倍、インド 1.59 倍、ブラジル 1.27 倍となっている。日本の 1 人当たり GDP と BRICs 各国との比率を 2000 年と 2006 年で比較すると、対インドは 10.80 倍から 8.56 倍に、対中国は 6.59 倍から 4.21 倍に、対ロシアは 3.65 倍から 2.67 倍に、そして対ブラジルは 3.25 倍から 3.23 倍となっており、高成長が続いていることで日本との格差は徐々に縮小している。

こうした経済成長、言い換えると所得水準の向上によって、BRICs 各国の消費レベルは堅調に推移している。図表 4 は、BRICs 各国の 2003 年から 2006 年までの乗用車販売台数の推移である。各国とも拡大が続いているが、伸び率、増加数ともに顕著なのが中国である。2006 年の販売台数は前年の 1.3 倍となる 518 万台となり、日本の販売台数である 464 万台を初めて上回った。また、ロシアは 2004 年以降 2 桁の伸びが続いており、インド、ブラジルも堅調に推移している。2003 年の BRICs の販売台数は日本の 1.1 倍である 524 万台であったが、中国を中心に増加が続いていることで、2006 年には日本の倍以上となる 969 万台にまで拡大した。

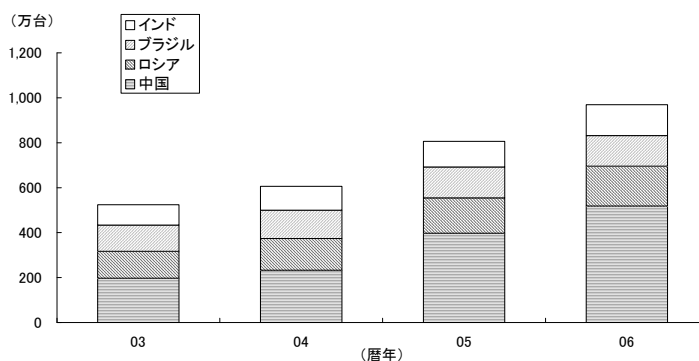
一方、家電の需要も着実に増加している。図表 5 は世界全体の白物家電の需要台数に占める BRICs のシェアの推移であるが、需要の拡大に伴い、シェアが上昇している。BRICs 全体の、2005 年のルームエアコンのシェアは、中国のシェアが世界の 35.4% を占めたこともあり、40.9% と全体でも高まった。また電気炊飯器をみると、2005 年には中国だけで世界のうち 50.3% を占めている。これ以外にもルームエアコン

図表 3. BRICs 各国の一人当たり GDP (購買力平価ベース) の推移



(資料) IMF

図表 4. BRICs 各国の乗用車販売台数の推移



(資料) SMMT, SIAM, Global Insight, 中国汽車工業協会
(備考) インドは年度ベース、ブラジルは登録台数、ロシアの2006年は新車の販売台数

図表 5. 世界全体の白物家電の需要台数に占める BRICs のシェアの推移

	2000年実績	2005年実績
ルームエアコン	30.9%	40.9%
電気冷蔵庫	27.3%	29.9%
電気洗濯機	31.6%	33.4%
電気掃除機	8.1%	8.3%
電子レンジ	16.5%	23.0%
電気炊飯器	43.6%	51.9%
電気かみそり	10.7%	17.6%

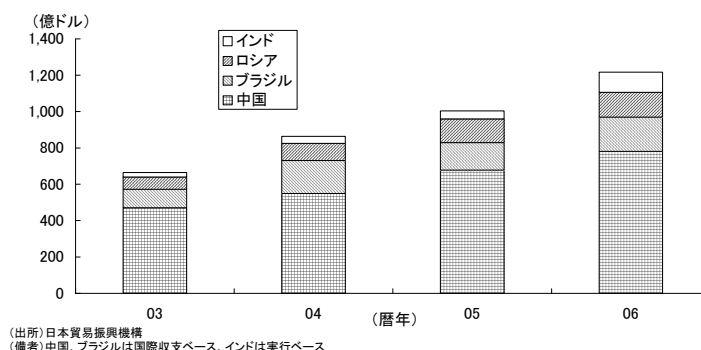
(出所) 日本電機工業会

(備考) 需要台数は、販売、生産、輸出入統計を収集してまとめた実績

や電気冷蔵庫でインドが、電気洗濯機や電気掃除機、電気かみそりでロシアが、電気冷蔵庫でブラジルが需要台数別で世界の上位 5 位に入るなど、家電の需要においても BRICs はその存在感を増している。

次に、BRICs 各国に対する投資について見てみる。図表 6 は対外投資の受入額の推移であるが、中国は毎年 10% 台から 20% 台の伸びで拡大しており、その他の国でも大幅に伸びている。2006 年の直接投資額を 2003 年と比較すると、中国が 1.7 倍、ブラジルが 1.9 倍、ロシアが 2.0 倍、そしてインドにいたっては 4.5 倍と大きく伸びている。ここ数年では、日本の自動車メーカーなどが、新たにインドやロシアに進出するなどの動きも見られ、このような流れは今後も続くと思われる。

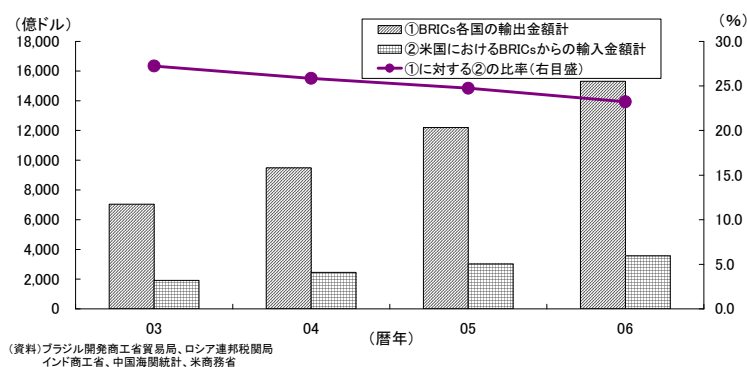
図表 6. BRICs 各国の対外投資受入額の推移



次は BRICs 各国の輸出を見てみる。BRICs のうち、ロシアを除く 3 カ国においては、米国が最大の輸出相手国である。しかし、米国以外の輸出が米国向けを上回って伸びており、そのために米国向けのシェアは落ちている。

図表 7 は、2003 年から 2006 年にかけての、BRICs の輸出金額、および米国の輸入金額のうち BRICs から輸入された金額を示したものである。BRICs の輸出金額は、この 3 年間、年平均で約 30% という高い伸びで増加し、その結果 2006 年の輸出金額は、2003 年の 7,050 億ドルに対しその倍以上となる 1 兆 5,318 億ドルにまで拡大した。国別に見ると、BRICs の輸出金額のうち 6 割以上を占める中国では、アジアや EU 向けに、一般機械などの工業製品が牽引する形で大幅に増加した。ロシアではヨーロッパやアジアの周辺各国など幅広い地域向けに、石油・天然ガスなどのエネルギー資源の輸出が拡大し、インドでは ASEAN、アラブ首長国連邦、中国などの近隣・周辺国向けに、石油製品や機械類を中心に大きく増加した。ブラジルにおいても、メルコスール、中国、EU と幅広い地域で輸出が増え、大豆や砂糖、エタノールといった資源、食糧の輸出が大きく伸びた。

図表 7. BRICs の輸出金額の合計と、米国の BRICs からの輸入金額の推移

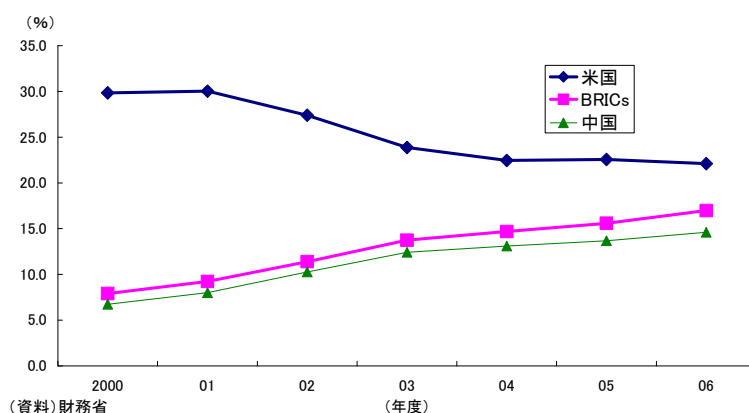


一方、米国における BRICs からの輸入金額の、年平均の伸びをみると約 22% となっている。2003 年の米国の BRICs からの輸入金額は、BRICs 全体における輸出金額と比較すると、27.2% の比率であったが、2006 年には 23.2% にまで低下した。BRICs の輸出は、米国以外の地域向けが、米国向けを上回って増加しながら、拡大を続けている。

3. わが国の輸出動向

ここからは、わが国の輸出動向を確認する。図表8は、米国・BRICsおよび中国向けの、輸出金額のシェアの推移である。わが国最大の貿易相手国である米国向けのシェアは、趨勢的に低下傾向にある。図表を見ても、2002年度以降シェアが低下しており、2006年度は22.1%と、約30%のシェアがあった2000年度の4分の3に低下している。一方BRICsのシェアは、2000年度は7.9%であったが、拡大を続け、2006年度は2000年度の倍以上となる17.0%となった。

図表8. わが国の輸出金額に占める米国・BRICsおよび中国向けのシェアの推移



BRICsの中で最大であり、2006年度において世界の中で米国に次ぐ輸出相手国である中国の存在が大きく、中国向けの2000年度のシェアは6.7%であったが、半導体等電子部品などの電気機器や化学製品、一般機械を中心に、2桁の伸びが続き、2006年度には14.6%と、6年間でシェアが8%も上昇した。また、中国以外の各国においても、自動車の輸出が好調で2003年度以降5割以上の伸びが続いているロシア向けや、一般機械、電気機器を中心に増加を続けているインド向け、そして原動機などの一般機械や自動車の部分品などの輸送用機器が好調なブラジル向けも堅調に推移しており、中国を除いたシェアも2000年度は1.2%にすぎなかったが、2006年度には2.4%とシェアが倍になった。

4. まとめ

BRICsは、高成長によって所得改善が進み、自動車や家電を中心に消費が大幅に伸びている。こうした中、日本を始めとする外資企業の進出も相次ぐなど、直接投資の増加が続いている。一方、BRICsからの輸出は、主要相手国であった米国以外の地域向けが増えており、輸出相手国を分散させながら堅調に推移している。

IMF（国際通貨基金）は、今年10月に「World Economic Outlook」の最新版を公表した。それによれば、米国に端を発した金融市場の混乱から、一部の先進国については成長率が下方修正されたが、BRICsはじめ新興国については、今後も力強い成長が続くとしており、世界全体でみると堅調な成長が続くという見通しに変わりはないとした。

われわれも、BRICsは米国の影響を大きく受けることなく、今後も内需・外需が拡大することで高成長を続けると見込んでいる。わが国の輸出も、拡大を続けるBRICs向けが堅調に推移することで、増加基調を維持するであろう。

(財務企画部 八丸 哲)